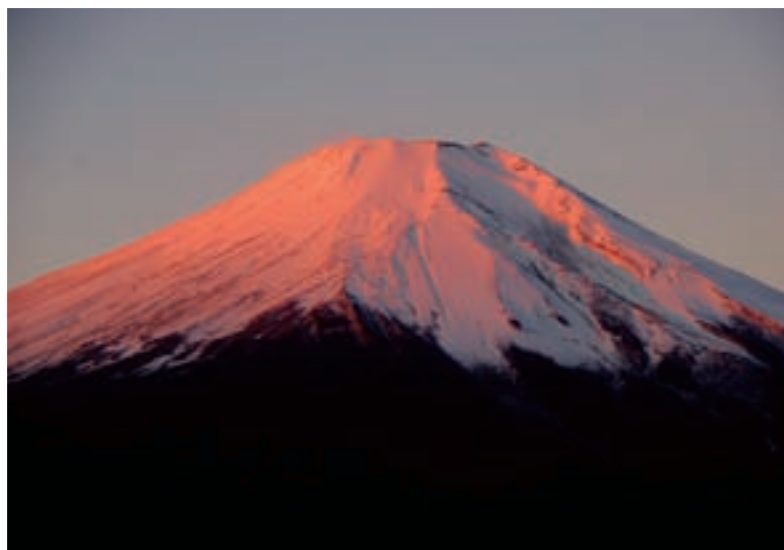


株 主 の 皆 様 へ

FUJI NIHON SEITO CORPORATION



第88期 事業報告書

2010年4月1日から2011年3月31日まで 証券コード：2114



フジ日本精糖株式会社

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素よりご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第88期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず、東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈念するとともに、当社においても微力ながらお役に立てるよう最大限の努力をする所存です。当期は中期3ヵ年計画の最終年度として、売上高200億円、当期純利益10億円を目指して参りましたが、売上高につきましては目標を若干下回ったものの、当期純利益につきましては何とか目標を達成することができました。

海外の原糖相場は異常気象による生産減少と新興国の消費増大により、需給の逼迫が懸念され原糖価格の大幅な上昇が見られましたが、安定的な原糖価格による調達に努めた結果、砂糖事業においては前年並みの収益を確保することができました。

機能性素材事業においては、大手食品メーカーで脂肪代替用途でのイヌリンの採用が決まり、売上・収益とも大幅な改善が見られました。長年にわたる共同研究により製品化にこぎつけたもので、これをきっかけとして機能性素材事業の飛躍を目指す所存であります。

大震災を契機として、これからの日本のあり方に様々な議論が出ていますが、低成長にあえいでいる今の日本を見直す機会として、古くなったシステムの見直しや規制緩和を積極的に進めるべきであると思います。日本は幾多の困難に打ち勝ってきた経験があります。当社としても新たな歴史を刻み始める自覚を持って、次の世代の為に前進していきたいと思っております。

株主の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月
代表取締役社長 江口 達夫



フジ日本精糖 10年のあゆみ

日本精糖とフジ製糖が合併しフジ日本精糖が誕生して、おかげさまで本年10月に10周年を迎えます。この間、事業の選択と集中や工場の合理化等に取り組み、機能性素材事業を精糖事業に次ぐ第2の柱にすべく積極的な事業展開をして参りました。今後も地球環境に配慮した事業活動を推進し、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献いたします。

2001年

- 10月 日本精糖株式会社とフジ製糖株式会社が合併し、商号をフジ日本精糖株式会社に変更。
- 10月 太平洋製糖株式会社において精製糖の共同生産開始。

2004年

- 3月 清水工場における精製糖（液糖を除く）の生産停止。

2007年

- 11月 平成19年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰において、「スクロースを原料として酵素で作られたイヌリンの性質と食品への利用」の研究で「農林水産大臣賞」を受賞。

2011年10月 合併10周年

2001年

2002年

2003年

2004年

2005年

2006年

2007年

2008年

2009年

2010年

2011年

2003年

- 4月 横浜工場跡地の賃貸開始。
- 5月 清水工場において品質マネジメントシステム ISO9001 認証取得。
- 6月 清水工場 イヌリンプラント完成。
- 8月 イヌリン製品「フジFF」販売開始。



イヌリンプラント



横浜工場跡地

2006年

- 3月 日本ティバルディ株式会社を清算。
- 12月 環境マネジメントシステム ISO14001 認証取得。



2005年

- 1月 イヌリンの研究結果が、米国化学会が発行する食品化学論文誌「Journal of Agricultural Food and Chemistry」に掲載。
- 5月 フードサイエンス工場竣工
- 10月 Tibaldi Small Goods (Australasia) Pty.,Ltdの株式を売却。

2008年

- 1月 株主優待制度の新設。
- 2月 清水工場原糖倉庫跡地の賃貸開始。
- 5月 ユニテックフーズ株式会社の株式を取得。（現・連結子会社）
- 8月 マンション開発分譲事業において神奈川県相模原市にマンション竣工。



ユニテックフーズ株式会社は、ペクチン等の天然添加物素材や、その他機能性素材を独自のアプリケーション開発技術とともに日本国内の有名食品メーカーに販売しております。



清水工場原糖倉庫跡地



マンション開発分譲事業

THE 10 th ANNIVERSARY



次の10年・20年に向けた 成長を果たすべく、 新たな資産の創出に 取り組んでまいります。

代表取締役社長
江口 達夫

Q はじめに、今回の震災による
事業への影響についてお聞かせください。

A 今後の電力不足による生産面への影響や、
観光客の減少に伴う砂糖消費へのダメージが懸念されます。

当社においては、幸いにして人的被害や設備の損壊等を免れることができました。しかし、震災の影響として今夏に予想される電力不足により、生産拠点である太平洋製糖株式会社（横浜市）やその他の委託先にて、生産・出荷業務に支障が生じる懸念があります。その際は、委託先を他に拡げる必要があり、現在対策を進めているところです。

砂糖の消費への影響としては、自粛ムードにより各地の観光客が激減しており、それに伴って菓子類の販売が減少する形でダメージを受ける怖れがあります。現在、自粛ムードについては次第に緩和されてきましたが、先の見通しについては不透明な状況が続いています。

Q 当期（2011年3月期）の事業環境について、
1年間を振り返ってお聞かせください。

A 海外粗糖価格の大幅な高騰を受け、国内の砂糖価格は最終的に期初より7円の値上げとなりました。

この1年間は、海外粗糖価格が大幅に上昇しました。生産国の天候異変による減産やブラジル港の物流停滞による思惑が生じるなか、新興国の需要拡大とファンド資金の流入を受けて高騰し、昨年11月には第2次オイルショック以来の最高値となりました。その後は期末にかけて落ち着いたものの、年間を通して高値圏で推移したと言えます。こうした状況を受け、国内の砂糖価格は期初の183円（上白大袋1kg当たり）から最終的に7円の引き上げとなる190円で期末を迎えました。

一方、国内の砂糖需要は徐々に減少しており、更に、税制上優遇された異性化糖や加糖調整品に需要がシフトする動きも見られるなど、厳しい状況にあります。砂糖消費のPR等、業界をあげての取り組みも継続していく予定です。

Q そうしたなかで進められた各事業の取り組み
および成果をご説明願います。

A 精糖事業は前期並みの業績を確保。機能性素材事業は「イヌリン」の用途開発と採用が大きく進展しました。

精糖事業については、適正価格の浸透と原料仕入価格の低減に努めたことにより、粗糖価格の上昇によるコスト増を抑制し、ほぼ前期並みの業績となりました。

機能性素材事業では、機能性食品素材「イヌリン」の用途開発と採用が大きく進展したことが、トピックとして挙げられます。特に、最近大手食品メーカーの食用油脂製品への採用が決まり納入が始まりました。これは「イヌリン」の脂肪代替機能を生かしたもので、トランス脂肪酸を含まずカロリーオフをもたらす主要素材としての大型採用となりました。従来は、物性改良等の添加物的な効果を期待して数パーセント程度の配合にとどまるケースが殆どでしたが、今回の大型採用によって来期（2012年3月期）より本格的な業績寄与が期待できます。

この他に機能性素材事業では、産学協同による花卉園芸関連の新製品開発や、子会社ユニテックフーズ株式会社とのタイアップによるフードサイエンス分野の受託拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当期の連結業績は、前期同水準の売上を維持しつつ、営業・経常利益は期初予想よりも減益幅を抑えることができました。

Q 中長期的な成長戦略についてお聞かせください。

A 市場開発室と機能性食品営業部を設置し、体制強化。来期は新中計の策定に向けて戦略を見直していきます。

当社は今年4月1日付で組織改正を行い、市場開発室と機能性食品営業部を新設しました。

市場開発室は、これまで素材提供を中心としてきた当社のビジネススタイルから脱却すべく、自社による最終

商品の開発やBtoC展開の可能性を追求していく部署です。手始めに、この6月より「イヌリン」を応用した自社ブランド商品の通信販売を実施していきます。

機能性食品営業部は、従来の機能性食品事業部・フードサイエンス事業部・加工原料事業部の統合による新部署です。これは、お客様を中心とする視点で、機能性食品のより効率的な提案営業を進めていくための統合です。

これらの機能性食品を中心とする体制強化と並行して、今後は主力の精糖事業を含めた成長性を確保していくために、海外市場への展開を具体化させていく考えです。

なお来期は、新中期経営計画の初年度となる予定でしたが、粗糖価格の高騰や「イヌリン」関連の進展など流動的な状況を鑑み、中期計画策定に向けた事業戦略の見直しを行う1年間とします。来期の連結業績については、製造コストの上昇を前提に減益を予想し、売上高200億円、営業利益10億円、経常利益11億円、当期純利益7億円を見込んでいます。

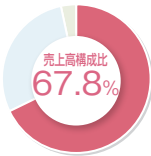
Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 感謝の気持ちを込め、合併10周年記念配当を実施。
新たな資産を創出していく取り組みを進めてまいります。

おかげさまで当社は、2011年10月1日に合併10周年を迎えます。これまでのご支援に対する感謝の気持ちを込め、今回の期末配当につきましては、普通配当1株当たり10円に、合併10周年記念配当として同2円を加えた合計12円とさせていただきます。

これまでの当社の収益は、過去からの資産によって生み出されたものが多く含まれていました。今後は、次の10年・20年に向けた成長を果たすべく、新たな資産を創出していく取り組みを進めてまいりたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。

当期の概況
売上高：13,007百万円
営業利益：1,644百万円

精糖事業につきましては、海外原糖市況は、期初ニューヨーク市場現物相場は19.97セント（1ポンド当たり）で始まりましたが、インドやブラジルでの増産見込みで需給が緩和されるとの見通しで期初から一旦は緩やかに値を下げて行きました。その後、ブラジルでの砂糖輸出遅延、ロシアの早魃・パキスタンの大洪水などから砂糖の需給が逼迫すると思惑から相場は一転反発を見せ上昇を続け、更に豪州の洪水被害やインドの輸出見直しなどの要素が加わり11月に第二次石油危機以来の最高値39.65セントを付けました。しかし、インドの輸出再開やタイ国の増産等により相場の頭は押さえられ、反落して31.58セントで期末を迎えました。

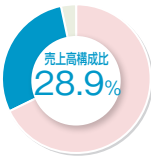
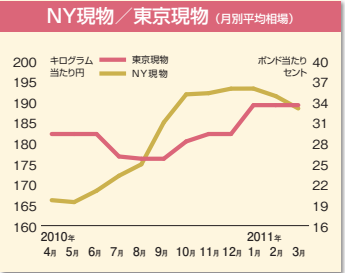
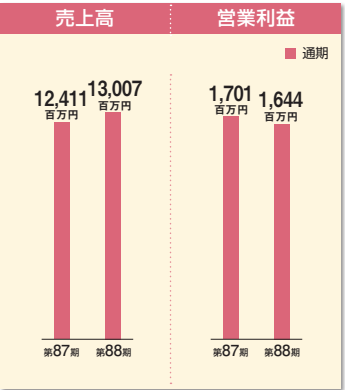
ニューヨーク市場現物相場（セント/ポンド当たり）の動き

期初	高値	安値	期末	平均
19.97	39.65	18.07	31.58	29.24

一方、国内製品市況は、期初東京現物相場183円（上白大袋1キログラム当たり）で始まりましたが、海外原糖相場の下落を受け7月に製品出荷価格を6円下げました。その後秋口以降海外原糖相場の再上昇を受け、10月に6円、12月に7円の引上げを行い、190円で期末を迎えました。

製品の荷動きについては夏場の猛暑により主要ユーザーの氷菓、アイスクリームなど夏場商品が好調に推移したものの、特約店や二次店経由の販売の漸減傾向が続き、残念ながら販売数量は前期を下回ることとなりました。

このような状況のなか、当社は顧客への安定供給と堅実な原料調達、生産コストの抑制、更に、値上げの浸透に努めたことにより精糖事業の売上高は13,007百万円（前年同期比4.8%増）となり、営業利益1,644百万円（同3.3%減）を計上することができました。



機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

当期の概況
売上高：5,537百万円
営業利益：18百万円

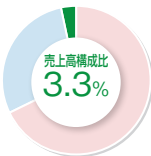
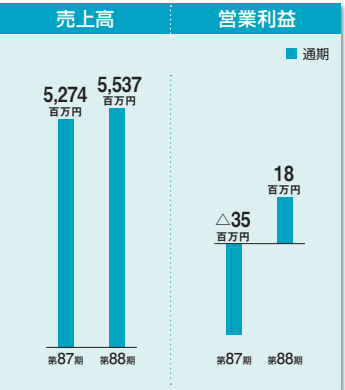
機能性素材事業につきましては、機能性食品部門は引き続き、イヌリンの用途開発、拡販に努め、大手食品メーカーと共同開発を進めていた、脂肪代替機能を生かした新製品に採用が決まったことから売上高は前期比36.6%の大幅増となりました。

また、果汁を中心とする加工原料事業も猛暑による飲料向けの伸びが寄与し売上高は前期比22.5%増と順調でしたが、食品添加物部門は一部大口顧客の業績不振により売上高は前期比9.5%減となりました。

一方、切花活力剤部門では、前期にテレビCMを投入してブランド強化策を実施した家庭用製品を中心に拡販に努めましたが、天候不順による花卉類の高値と需要減退の影響もあり、売上高は前期並みとなりました。

ユニテックフーズ株式会社においては主力のペクチン、ゼラチン等の天然添加物の販売および提案型のOEM関連事業が好調で業績は順調に推移しました。

これらの結果、機能性素材事業の売上高は5,537百万円（前年同期比5.0%増）となり、営業利益は18百万円（前年同期営業損失35百万円）となりました。

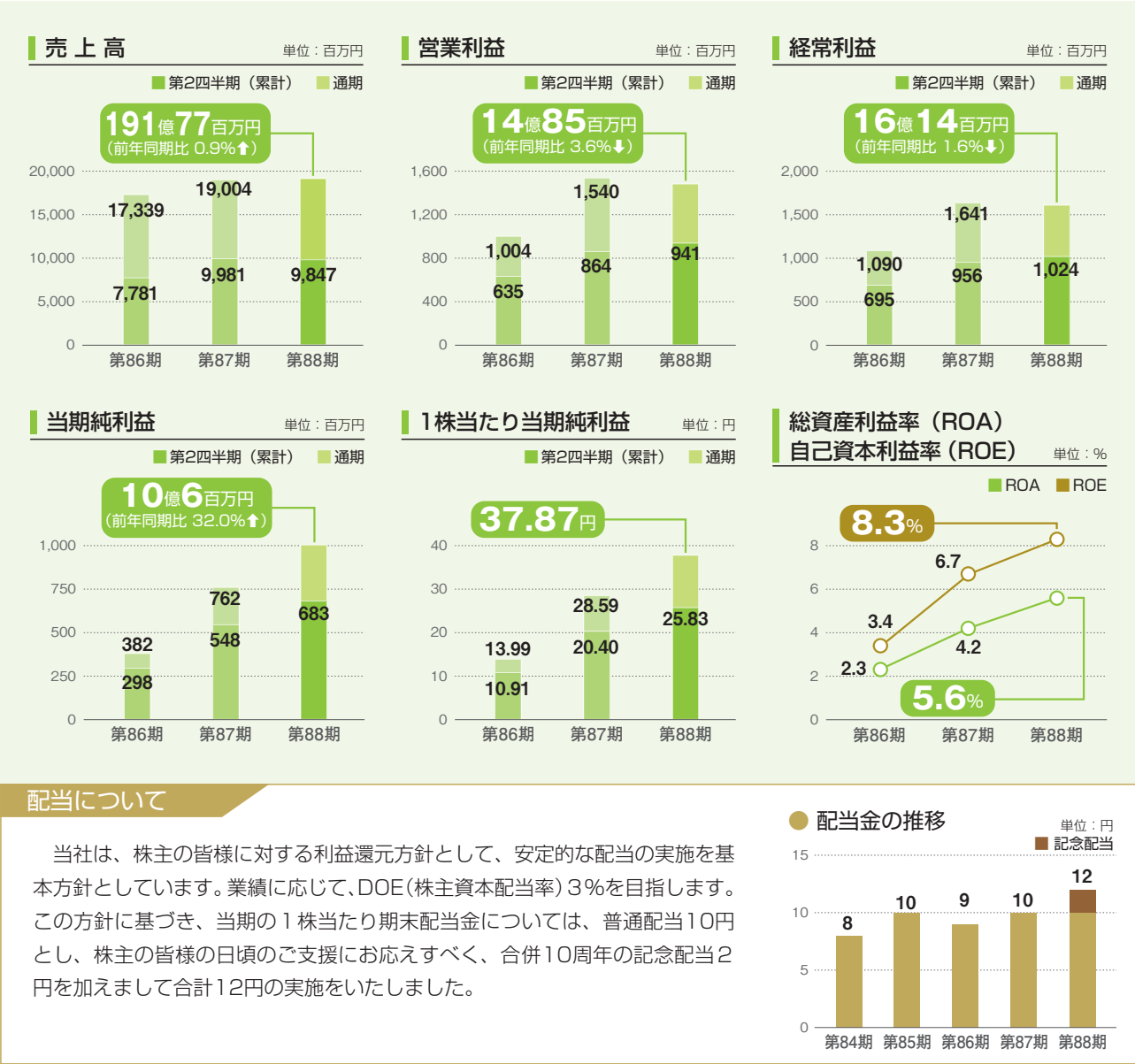


不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

当期の概況
売上高：632百万円
営業利益：546百万円

不動産事業につきましては、既存賃貸物件の一部につき建替工事を行いました、その他の賃貸物件は概ね順調に稼働し安定収益の確保に貢献しました。この結果、前期には計上されたマンション開発分譲事業の売上が無くなったことにより不動産事業の売上高は632百万円（前年同期比52.0%減）となりましたが、営業利益は前期並みの546百万円（同1.0%減）となりました。



連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで	前 期 2009年 4月 1日から 2010年 3月31日まで
売上高	19,177	19,004
売上原価	14,474	14,320
売上総利益	4,702	4,684
販売費及び一般管理費	3,217	3,143
営業利益	1,485	1,540
営業外収益	195	190
営業外費用	66	89
経常利益	1,614	1,641
特別利益	1	0
特別損失	72	375
税金等調整前当期純利益	1,543	1,266
法人税、住民税及び事業税	489	554
法人税等調整額	47	△ 58
少数株主損益調整前当期純利益	1,006	—
少数株主利益	—	6
当期純利益	1,006	762

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産 合 計
	資本金	資 本 剰余金	利 益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	その他の包括利益 累 計 額 合 計	
平成22年3月31日残高	1,524	2,508	8,184	△ 806	11,411	304	△ 5	299	11,710
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 264		△ 264				△ 264
当期純利益			1,006		1,006				1,006
自己株式の取得				△ 8	△ 8				△ 8
自己株式の処分		15		81	96				96
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 118	1	△ 116	△ 116
連結会計年度中の変動額合計	—	15	742	73	831	△ 118	1	△ 116	714
平成23年3月31日残高	1,524	2,524	8,926	△ 732	12,242	186	△ 3	183	12,425

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで	前 期 2009年 4月 1日から 2010年 3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	249	1,712
投資活動による キャッシュ・フロー	△537	△ 700
財務活動による キャッシュ・フロー	△563	△ 570
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△7	△ 0
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△859	440
現金及び現金同等物の 期首残高	2,754	2,313
現金及び現金同等物の 期末残高	1,895	2,754

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

会社の概況

(2011年3月31日現在)

COMPANY INFORMATION

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年（昭和24年） 7月
資本金	1,524百万円
従業員数	70名
本社所在地	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同 生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社
関連会社	太平洋製糖株式会社 南米糖業株式会社 マ・マーマカロニ株式会社

役員

代表取締役社長	江口 達夫
代表取締役専務	佐藤 伸郎
常務取締役	船越 義和
取締役常務執行役員	高梨 繁憲
取締役	西野 恭一
取締役	櫻田 誠司
取締役	村上 光廣
常勤監査役	高橋 宏寿
常勤監査役	千田 治
監査役	上平 徹
監査役	城 靖

執行役員

常務執行役員	渡辺 修司
執行役員	櫻田 礎久
執行役員	福田 弘
執行役員	梶原 久雄
執行役員	佐塚 眞弘
執行役員	山崎 伸夫

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の概況

(2011年3月31日現在)

STOCK INFORMATION

株式の状況

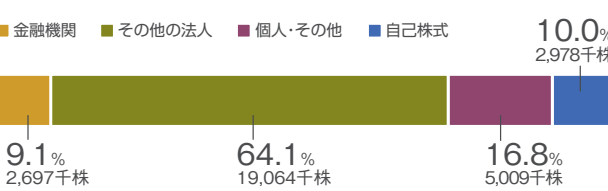
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	2,559名

大株主

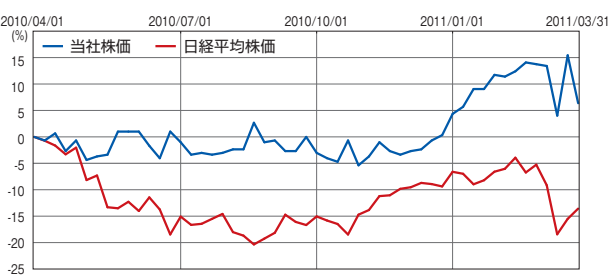
株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
双日(株)	8,153	30.5
塩水港精糖(株)	2,218	8.3
鈴与(株)	1,402	5.2
和田製糖(株)	1,226	4.6
野村信託銀行(株)(信託口)	933	3.5
(株)静岡銀行	792	3.0
(株)榎本武平商店	558	2.1
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	500	1.9
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7
双日食料(株)	419	1.6

(注) 出資比率は自己株式（2,978千株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



比較チャート (2010年4月1日を基準日とした当社株価と日経平均株価の騰落率)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公 告 掲 載 URL http://www.fnsugar.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の
海野 進が撮影した作品です。

撮影地
ー 山梨県 山中湖 ー



「赤富士」

株主優待制度のご案内

3月31日現在、当社株式1単元（1,000株）以上ご所有の株主の皆様へ、3,000円相当の当社商品詰合せを7月に贈呈いたします。



※株主優待品の一例。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報や商品情報など様々な情報をご覧いただけます。また、ネットショッピングもお楽しみいただけます。



フジ日本精糖

検索

<http://www.fnsugar.co.jp/>